

# 3D マンモグラフィ（トモシンセシス）

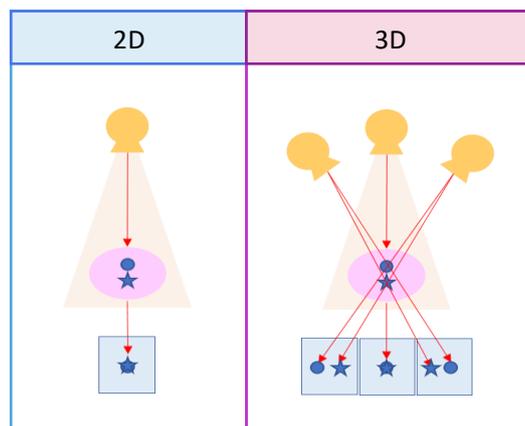
2019年に導入されたGE社製マンモグラフィ装置「Senographe Pristina」は、オープンで3D マンモグラフィ（トモシンセシス）撮影が可能です。

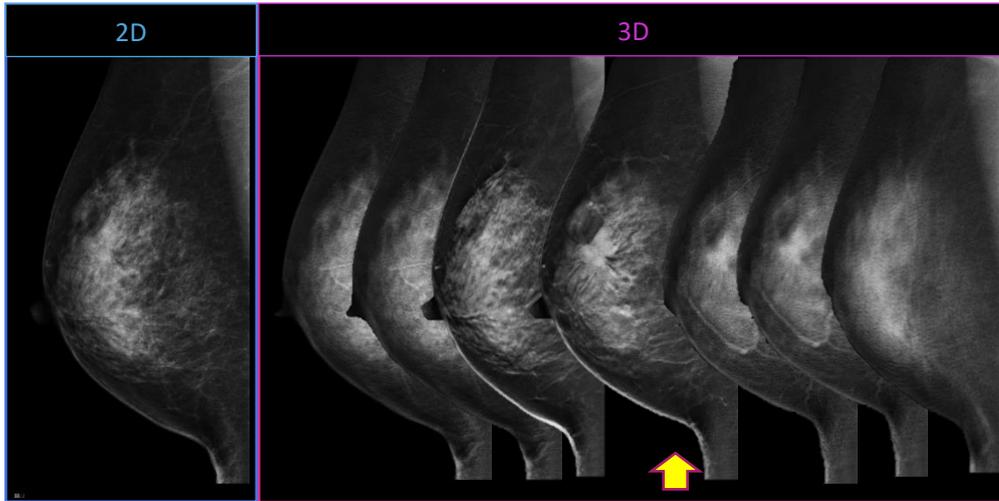
**広島県西部地区で初めて**導入されたトモシンセシス（Tomosynthesis）とは Tomography（断層）と Synthesis（合成）の2つの意味から作られた造語で、マンモグラフィ検査における新しいX線撮影技術です。



## トモシンセシスについて

トモシンセシスは従来のマンモグラフィ検査に付加された検査機能の名称で、1回の乳房圧迫で角度を変えながら低線量撮影し、複数枚の断層像を数ミリ単位で作る最新技術です。通常のマンモグラフィ（2D）のデメリットであった正常乳腺と病変部の重なりを解消し、乳房画像診断における感度と特異度を大いに改善させ、診断能の向上が多数報告されています。この技術は日本女性に多いとされる高濃度乳腺（デンスブレスト）に大変有効です。

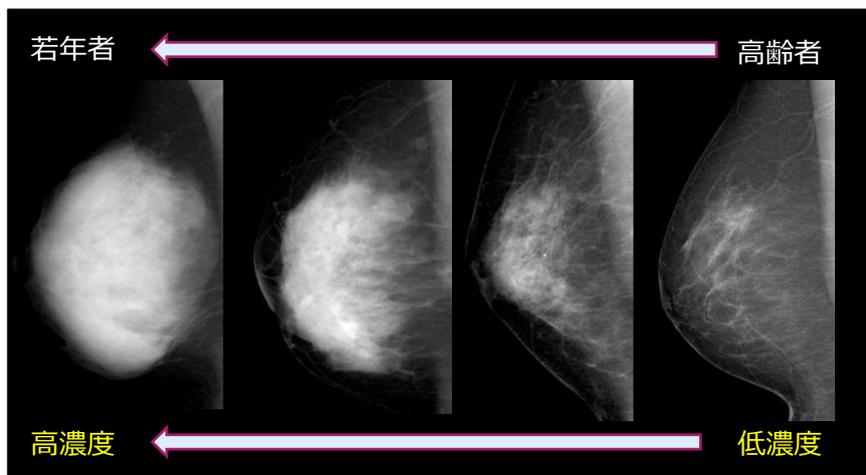




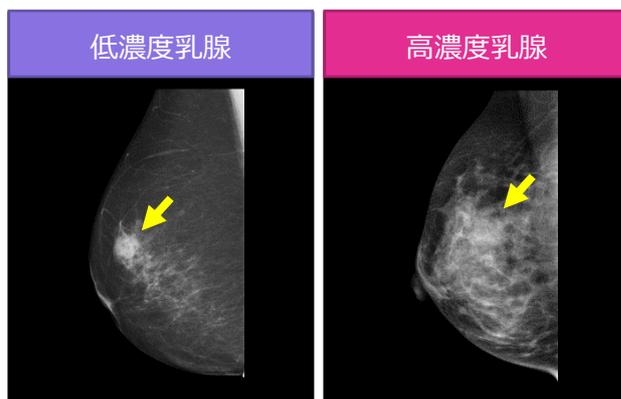
3D マンモグラフィ（トモシンセシス）画像は、病変が存在する断層にフォーカスを当てることで見つけやすくなります。

## デンスブレストとは

デンスは「高濃度」、ブレストは「乳腺」で、**高濃度乳腺**という意味で、異常ではありません。乳房は、乳腺組織と脂肪組織によって構成されています。マンモグラフィで乳腺は白く、脂肪は黒く写ります。デンスブレスト（高濃度乳腺）は乳腺が多いので、全体的に白い塊のように写し出されます。

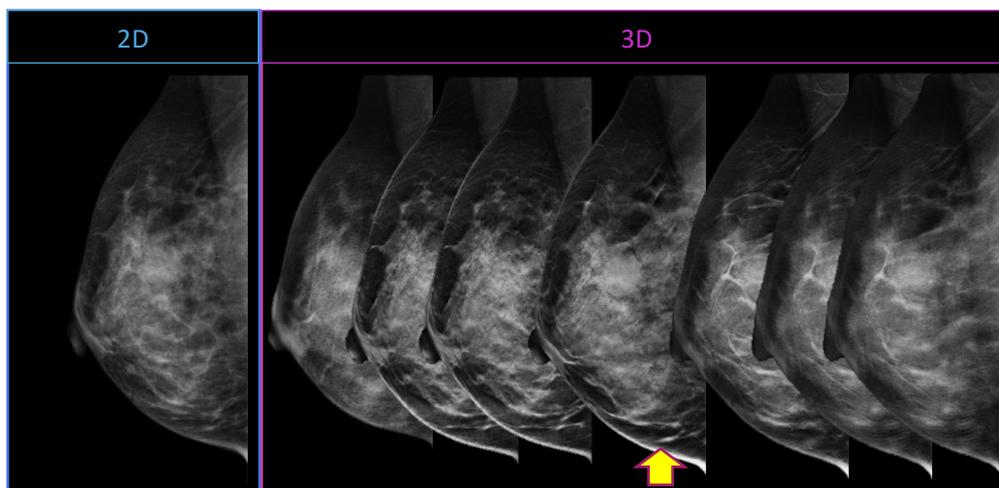


問題は、**乳がんも白く写るので**、高濃度乳腺の場合は、がんがあっても正常乳腺に隠れて見えにくいことにあります。なんと、日本人女性の**約4割**がデンスブレストと言われて  
います。



つまり、乳腺濃度の低い乳房では、乳がん腫瘍を発見しやすいけれど、乳腺濃度が高いほど腫瘍を発見しにくい可能性があるということです。

通常マンモグラフィ（2D）では正常乳腺と重なって見えにくい腫瘍も、トモシンセシス（3D）では、はっきり腫瘍が見えます。このように3D マンモグラフィの技術は大変有用なのです。



## 地域の皆様に

---

乳がんは**9人**に**1人**が発症するといわれていますが、予防については現在のところ有効な手段が見つかっていません。その一方で、乳がんは早期発見されれば**約90%**は治る病気だといわれています。

これまでのマンモグラフィの得意とする、乳がんの初期症状である石灰化の発見に加え、最新の3Dマンモグラフィで、少しでも地域の皆様の健康にお役に立てるよう努力して参ります。

最後に、当院では女性スタッフが担当させていただきますので、早期発見・早期治療のために、定期的に乳がん検診を受けましょう。